

平成24年度能美市地域福祉活動計画  
第2回アクションプラン推進協議会（会議録）

日時：平成24年7月9日（月）午後7時30分～午後8時15分 場所：辰口健康福祉センター

参加者：高塚亮三、宮田 明、橋本八重子（人づくり委員会）  
井上 徹、吉田 良（ネットワークづくり委員会）  
喜多 泉、清水奈津美（支えあいのしくみづくり委員会）  
西川方敏、武田裕幸（私たちのボランティアセンターづくり委員会）  
田中邦一、村上洋子（評価委員会正副委員長）（敬称略）  
社協事務局：宮本会長、斉藤事務局長、新川次長、海道、谷、小西、高畑（記録）

1. 開会の挨拶

高塚アクションプラン推進協議会長

能美市地域福祉活動計画第1次計画のまとめと、2次計画へ向けての課題の抽出など期間が短い中だが、皆さんの協力の下、進めていきたい。

2. 報告及び協議

・各アクションプラン委員会からの報告について（委員会報告資料参照）

高塚会長：第2回までは前回の会合で報告した通り。第3回ではブレインライティング法<記述式による集団発想法>を用いて、各委員がふれあい事業をどのように広めていくか、人づくり委員会をどうとらえているかの意見を出し合った。

井上理事：7月3日に第2回会合を開催した。地域福祉委員会への取り組みが話題となり、未設置の町会への働きかけを協議した。現在未設置の町会を見ると比較的小さい規模の町が多い。小さい町では地域福祉委員会が設立されていないが、見守り体制などは機能している場合もあり、設立を働き掛けても『必要があるのか?』という返答が多い。  
見守りなどの機能はあるが、委員会としては未設置ということで地域福祉活動計画の目標として設置数を定めていることに対しては設置を働きかけるべきだと思うが、どうすべきか意見が分かれる。

西川副会長：未設置の町会に対しては、直接設置することを働きかけるのではなく、見守りなどの実際の活動がどのように行われているかをまとめたい、もしくは、調べさせてほしいなどとアプローチをかける方法もある。  
地域福祉委員会対象の研修などでも、未設置でも見守りなどが機能している町会のことを紹介することも必要なのではないか。他の町会によっては、次の発想につながるのではないか?

吉田理事：大きい町ほど活動するには、手間が多く難しいと思う。町や地域の規模をふまえた支援を考えたい。

西川副会長：大きい町では集落や班ごとに分けて考えることも可能だと思う。

井上理事：自主防災組織での防災活動なら「避難訓練」や「消火器訓練」の実施など、具体的な活動や目標につなげやすい。しかし、地域福祉活動となると具体的な目標や数値に表しにくいということもあり、活動に迷うのだと思う。

高塚会長：防災訓練等を実施した際に、そこに参加できなかった人について考えることが地域福祉としての活動であり、地域福祉委員会の役割と言える。このことを理解してもらうことが、地域福祉委員会の活動につながるのではないかと

西川副会長：理想を提示することで、目標ができるが、その理想を理解できないと目標に進むことが難しい。一つずつ経験を積み重ねることで地域の厚みがうまれるのではないかと。

喜多理事：ファミリー・サポート・センター（以下：ファミサポ）の利用に関する啓発が地域福祉活動計画のスタート後の大きな活動になっている。ファミサポには頻繁に依頼があり、依頼会員は増加している。これからの依頼会員と依頼数は増加していくことが予想されるが、協力会員数は足踏み状態であり、急な依頼があった場合に、対応できる協力会員は限られている。そのために協力会員の増加が今後の課題と考えられる。今年度は原点に戻って、協力会員を募る活動を重点とすることを協議した。ターゲットとしては団塊の世代として、その年代が集まる機会にPRする方法を考えている。例えば西二口町の喫茶「トロイカ」に出向きPRするなど、この活動から2次計画への課題も見えてこないかと期待している。また、ファミサポとしては、研修や会員同士の交流会、ミニ運動会等を開催している。集まって楽しいことを行いながら、支え合うことを自然とできるようになるということを実感しているので、こういう取り組みを大事にしたいと思っている。運営委員会については、定期的に開催して課題等を出し合って検討している。イクメン・家庭の支えあいの意識については、企業や社会の『休まずに働くことがよい』などの行き過ぎた習慣を正すことは難しいが、寸劇などの啓発をとおして一歩一歩すすめていきたい。

西川副会長：協力会員の増加が課題ということは、会員数は目標を達成できたが、協力会員と依頼会員の数のバランスが悪いということなのか？

喜多理事：バランスが悪いというより、依頼会員がどんどん増え、依頼数が増加している。子どもの預かりを通して、人と人が接するため、協力会員の中ならだれでもよいという訳ではない。ファミサポのコーディネーターは、

安心して預けられる信頼関係を築けるようマッチングを心掛けている。

高塚会長：ファミサポのミニ運動会はどれくらいの規模で、頻度はどれくらいか？

喜多理事：ファミサポ会員と親子サロン参加者に周知をしているが、参加者を限定することはない。親子サロンは3地区で開催しているが、このミニ運動会に関しては、協力会員も依頼会員も参加する親子の交流会の一つとして3地区合同で年1回開催している。また、今年度は寺井中央児童館で開催し、35組の親子が参加した。

西川副会長：ボラセンづくり委員会では、昨年度までの取り組みの振り返りを行いながら、現状把握からスタートした。話題の中から企業ボランティアについての情報交換を行い、2次計画に向けての継続事項等についての確認を行った。

#### ・1次計画のまとめ様式について

事務局より説明：1次計画のまとめ様式の書き方を説明。これを以て次回第3回アクションプラン推進協議会の資料といたく、各アクションプラン委員会よりの提出を願いたい。⇒了承

高塚会長：各アクションプラン委員会委員にも早めに届けられるようにしてほしい。

### 3. 今後の各アクションプラン委員会等の日程について

#### ・地域福祉人づくり委員会

8月 9日（木）10時～ 寺井地区公民館

#### ・地域福祉ネットワークづくり委員会

8月21日（木）19時30分～ 寺井地区公民館

#### ・私たちのボランティアセンターづくり委員会

7月11日（水）19時30分～ 辰口健康福祉センター

#### ・地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

8月 2日（木）13時00分～ ふれあいプラザ

#### ・第8回能美市社会福祉大会及び第5回能美市民ボランティアフェスティバル

8月 5日（日）10時～ 根上総合文化会館

### 4. その他

・次回 開催日 9月26日（水）19時30分～

・ 〃 会場 辰口健康福祉センター

### 5. 閉会

引き続き、第2次能美市地域福祉活動計画第1回策定ワーキング部会を開催